

WebEx用のMicrosoft Exchangeを使用したハイブリッドカレンダーサービスの設定

内容

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景説明](#)

[設定](#)

[オンプレミスMicrosoft Exchangeの偽装アカウントをセットアップする](#)

[Expresswayの信頼済みCAリストへのExchange CA証明書の追加](#)

[Expresswayに管理コネクタとカレンダーコネクタをインストールし、クラウドに登録する](#)

[カレンダーコネクタをMicrosoft Exchangeにリンクする](#)

[Calendar ConnectorのWebexサイト設定の構成](#)

[@webexおよび@meetキーワードの設定](#)

[カレンダーコネクタを起動する](#)

[ユーザーのハイブリッドカレンダーサービスを有効にする](#)

[カレンダーのスケジューリング用のデバイスの登録](#)

[Cisco Webexを使用してユーザをWebexパーソナルルームに関連付ける](#)

[確認](#)

[会議室のデバイスまたは個人会議でテスト参加ボタン](#)

[トラブルシューティング](#)

[集めるべき情報](#)

[Control Hubのユーザーのステータスの確認 \(単一ユーザー\)](#)

[Control Hubのユーザーのステータスの確認 \(ユーザー・ステータス・レポート\)](#)

[ハイブリッドカレンダーのステータスとイベントの確認](#)

[管理およびカレンダーコネクタの状態の確認](#)

[アラームとイベントのトラブルシューティング](#)

[関連情報](#)

はじめに

このドキュメントでは、Webex Cloud with Microsoft Exchangeでクラウド登録デバイスのハイブリッドカレンダーサービスを設定する方法について説明します。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- Cisco Webex Control Hub
- Cisco Expressway
- Microsoft Active Directory(AD)
- Microsoft Exchange Server (2013、2016、または2019)

使用するコンポーネント

- Cisco Webex Control Hub
- クラウドコネクタ用にCisco Expressway-Cが導入済み
- Microsoft Active Directory Serverは既に展開されています
- Microsoft Exchange

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな（デフォルト）設定で作業を開始しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

背景説明

ハイブリッドカレンダーサービスを使用すると、Microsoft Exchange、Office 365、またはGoogle Calendar環境をCisco Webexに接続できます。統合は、オンプレミスコネクタを介して行うことができ、純粋にクラウドベースで設定することも、ハイブリッドセットアップ方式で設定することもできます。

この機能の利点は次のとおりです。

- 簡単な会議スケジューリング
 - @webex：会議の招待状にWebexパーソナルルームの詳細を入力します。
 - @meet：会議の詳細を含むスペースをWebexアプリで作成し、参加情報を会議の招待状に追加します。
- Webexに登録されているアプリケーションとデバイスで会議リストを表示する
- ワンボタン機能(OBTP)を搭載
- 会議室のデバイスからのアドホック予約
- カレンダー招待状の本文からSIP UREまたはその他のビデオアドレスを解析します。
- 不在時に表示

設定

オンプレミスMicrosoft Exchangeの偽装アカウントをセットアップする

はじめる前に

- サービスアカウントとして使用するメール対応アカウントを選択する必要があります。
。（アカウントは管理者からのものである必要はありませんが、メールボックスが必

要です)。

- Cisco Unity Connection、Cisco TelePresence Management Suite(TMS)などの他のサービスで使用される偽装アカウントは使用しないでください。
- (Lightweight Directory Access Protocol(LDAP)フィルタを使用してActive Directoryと同期される一連のユーザを制限した場合、Exchangeの新しい管理スコープまたはすでに存在する管理スコープで偽装を制限する必要があります。

 ヒント：管理スコープと偽装に関するMicrosoftからの手順と詳細については、Microsoft Exchange Serverの構成ガイドラインを参照してください。

手順

ステップ 1：Exchange管理シェルがインストールされているサーバーにサインインします。次のアカウントのいずれかを使用してサインインします。


- Enterprise Adminsグループのメンバーであるアカウント。
- 設定コンテナ内のExchangeオブジェクトに対する権限を付与できるアカウント。

ステップ 2：Exchange管理シェルで次のコマンドを実行します。

新しい – ManagementRoleAssignment – 名前：RoleName – 役割：ApplicationImpersonation
– ユーザー'ServiceUserName'

定義：

- RoleNameは、割り当てに指定する名前です(例：CalendarConnectorAcct)。RoleNameに入力した名前は、get-ManagementRoleAssignmentを実行したときに表示されます。
- ServiceUserNameは、選択したアカウントの名前をdomain\aliasの形式で示します。

 注：これは、Exchangeが同期されているADですすでに作成されており、ドメイン管理者権限を持つユーザです。

```
[PS] C:\Windows\system32>New-ManagementRoleAssignment -Name:CalendarConnectorNew -Role:ApplicationImpersonation -User "deharshu\deepman"

Name                Role                RoleAssigneeName    RoleAssigneeType    AssignmentMethod    EffectiveUserName
----                -
CalendarConnectorNew ApplicationImpersonation deepman harshwardhan User                 Direct
[PS] C:\Windows\system32>
```

コマンドGet-ManagementRoleAssignmentを実行すると、各ユーザに割り当てられているロールを確認できます。

```
MyBaseOptions-Default Role... MyBaseOptions                Default Role Assignment Policy  RoleAssignmentPolicy           Direct                          All Policy Assignees
MyContactInformation-Default... MyContactInformation          Default Role Assignment Policy  RoleAssignmentPolicy           Direct                          All Policy Assignees
MyTextMessaging-Default Rol... MyTextMessaging               Default Role Assignment Policy  RoleAssignmentPolicy           Direct                          All Policy Assignees
MyVoiceMail-Default Role As... MyVoiceMail                    Default Role Assignment Policy  RoleAssignmentPolicy           Direct                          All Policy Assignees
CalendarConnector            ApplicationImpersonation       Calendar Connector              User                            Direct                          Calendar Connector
CalendarConnectorNew        ApplicationImpersonation       deepman harshwardhan           User                            Direct                          deepman harshwardhan
```

調整ポリシーを構成し、偽装アカウントに適用する

カスタム調整ポリシーは、カレンダーコネクタの円滑な動作に役立ちます。


- Exchange Server 2013および2016では、ポリシーによって偽装アカウントからExchange Webサービス(EWS)の制限が削除され、同時実行に関する最大の問題が回避されます。
- Exchange Server 2010では、ポリシーがデフォルトポリシーを上書きします。デフォルトは、エンタープライズアプリケーションではなく、ユーザのロードに合わせて調整されます。

ステップ 1 : Exchange管理シェルで、ポリシーを作成します。

- Exchange Server 2013または2016の場合は、次のように入力します。

新しい調整ポリシー – 名前"CalendarConnectorPolicy" -EWSMaxConcurrency unlimited -EWSMaxBurst unlimited -EWSRechargeRate unlimited -EWSCutOffBalance unlimited -EWSMaxSubscriptions 5000

```
[PS] C:\Windows\system32>New-ThrottlingPolicy -Name "CalendarConPloicy" -EWSMaxConcurrency unlimited -EWSMaxBurst unlimited -EWSRechargeRate unlimited -EWSCutOffBalance unlimited -EWSMaxSubscriptions 5000
Name                ThrottlingPolicyScope IsServiceAccount
-----                -
CalendarConPloicy  Regular                False
[PS] C:\Windows\system32>
```


 注 : CalendarConnectorPolicyは名前なので、この名前は任意の名前(たとえば、CalendarConPolicy)でも維持できます。

- Exchange Server 2010の場合は、次のように入力します。

新しいスロットリングポリシー名「CalendarConnectorPolicy」 -EWSMaxConcurrency \$null -EWSPercentTimeInAD 100 -EWSPercentTimeInCAS 500 -EWSPercentTime wspercentTimeInMailboxRPC 300 -EWSMaxSubscriptions 5000 -EWSFastSearchTimeoutInSeconds 60 -EWSFindCountLimit 1000

ステップ 2 : Exchange Server 2013または2016を使用していて、偽装アカウントにメールボックスがない場合は、次のコマンドを実行します。

Enable-Mailbox "偽装アカウント" – データベース"データベース名"

 注 : このラボ再現のために作成された偽装アカウントには既にメールボックスが作成されているため、この手順はスキップされました。

```
[PS] C:\Windows\system32>Get-Mailbox

Name                Alias                ServerName           ProhibitSendQuota
-----
bimal sinha         bimal                exchange             Unlimited
Calendar Connector  calendar             exchange             Unlimited
deepman harshwardhan  deepman             exchange             Unlimited
DiscoverySearchMailbox... DiscoverySearchMa... exchange             50 GB (53,687,091,200 bytes)
dx80                dx80                 exchange             Unlimited
sunil               sunil                exchange             Unlimited
vicky sinha         vicky                exchange             Unlimited
webexadmin          webexadmin           exchange             Unlimited

[PS] C:\Windows\system32>
```

ステップ 3 : 偽装アカウントに新しいポリシーを適用する :

```
Set-ThrottlingPolicyAssociation -Identity "偽装アカウント" -ThrottlingPolicy "CalendarConnectorPolicy"
```

場所 :

- impersonation accountは、Calendar Connectorのサービスアカウントとして使用する偽装アカウントの名前です。
- CalendarConnectorPolicyは、手順2で作成したポリシーの名前です。

ステップ 4 : メールボックスが新しいポリシーを使用していることを確認します。

```
Get-ThrottlingPolicyAssociation -Identity "偽装アカウント" | findstr "ThrottlingPolicy"
```

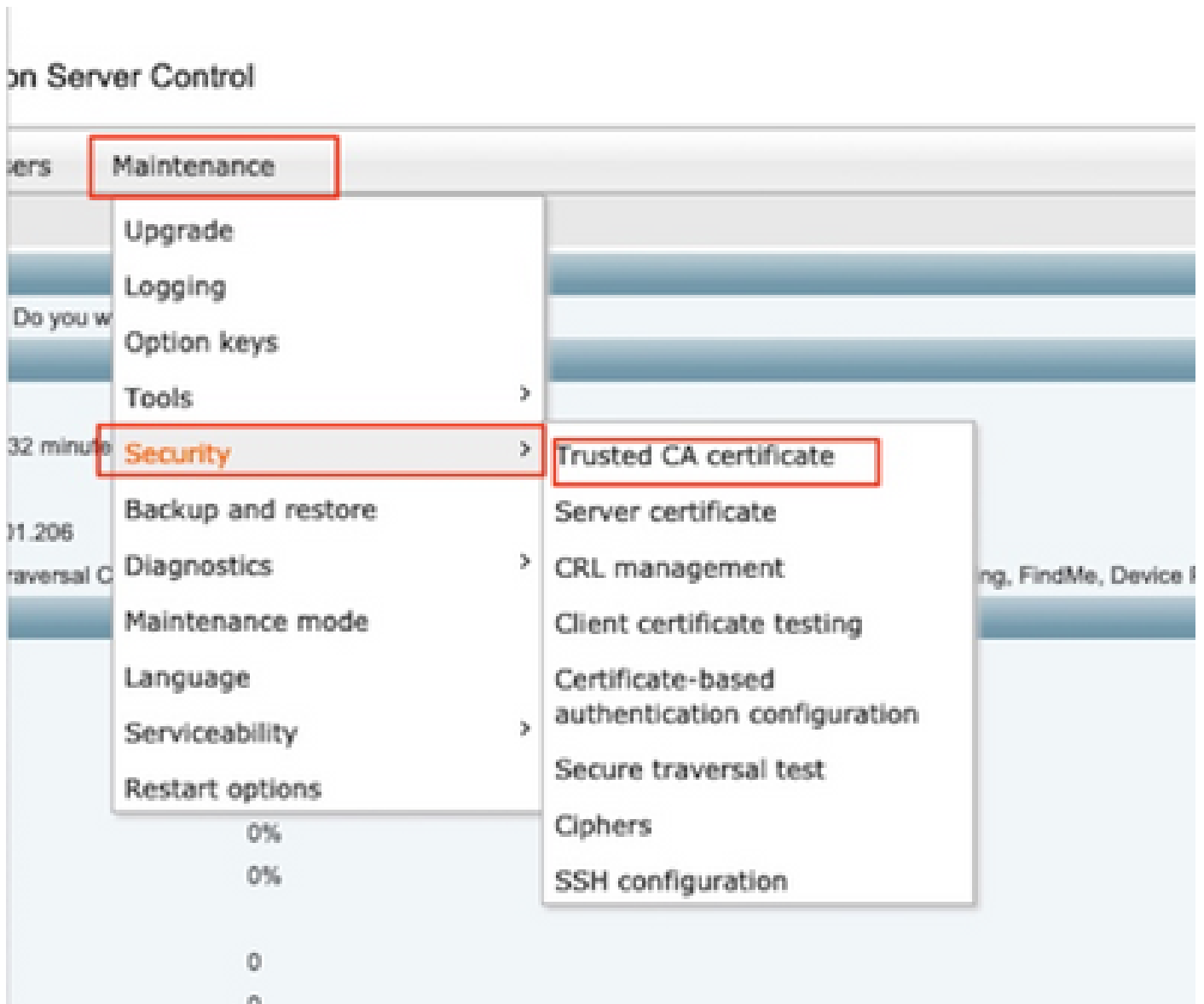
```
[PS] C:\Windows\system32>Set-ThrottlingPolicyAssociation -Identity deepman -ThrottlingPolicy CalendarConPloicy
[PS] C:\Windows\system32>Get-ThrottlingPolicyAssociation

Name                                         ThrottlingPolicyId
----                                         -
Administrator
Guest
DefaultAccount
krbtgt
deepman harshwardhan                         CalendarConPloicy
Exchange Online-ApplicationAccount
SystemMailbox{1f05a927-11c1-4af4-a536-c0a62ccc9404}
SystemMailbox{bb558c35-97f1-4cb9-8ff7-d53741dc928c}
SystemMailbox{e0dc1c29-89c3-4034-b678-e6c29d823ed9}
DiscoverySearchMailbox {D919BA05-46A6-415F-80AD-7E0933488852}
Migration.8f3e7716-2011-43e4-96b1-aba62d229136
FederatedEmail.4c1f4d8b-8179-4148-93bf-00a95fa1e042
SystemMailbox{D0E409A0-AF9B-4720-92FE-AAC869B0D201}
SystemMailbox{2CE34405-31BE-455D-89D7-A7C7DA7A0DAA}
SystemMailbox{8cc370d3-822a-4ab8-a926-bb94bd0641a9}
bimal sinha
vicky sinha
HealthMailbox4d67b3ef0e26493f9ef112bab35d0e81
HealthMailbox178b51e6e9e5457dbc3495cc9b469959
HealthMailbox5fa5a6a8709a42f9bc4a468e46ff380f
HealthMailboxcdfc6cc083b542f1b4cd2b1186dd1819
HealthMailbox0b6842254b594fa89aec753a59d92946
HealthMailboxa30c36729bd74783a00faff2796eee6e
HealthMailboxb3173213cff54d86940d1fd7f19c3101
HealthMailboxee97603e538140e08aa40148fdf7c18e
HealthMailbox32d38ac3544d4312a487a05862102c39
HealthMailboxe760a2e8a2ac4df89f24f706be514900
HealthMailbox694801c05eb4487699d4b00de3e7d886
Calendar Connector                           CalendarConnectorPolicy
webexadmin
sunil
sunil2
dx80
WARNING: The object deharshw.space/TAC/dx80 has been corrupted or isn't compatible with Microsoft support requirements, and it's in an incons
happened:
WARNING: SamAccountName for a user cannot include character '@'.
dx80
DEHARSHW-SPACE-
EXCHANGE

[PS] C:\Windows\system32>
```

Expresswayの信頼済みCAリストへのExchange CA証明書の追加

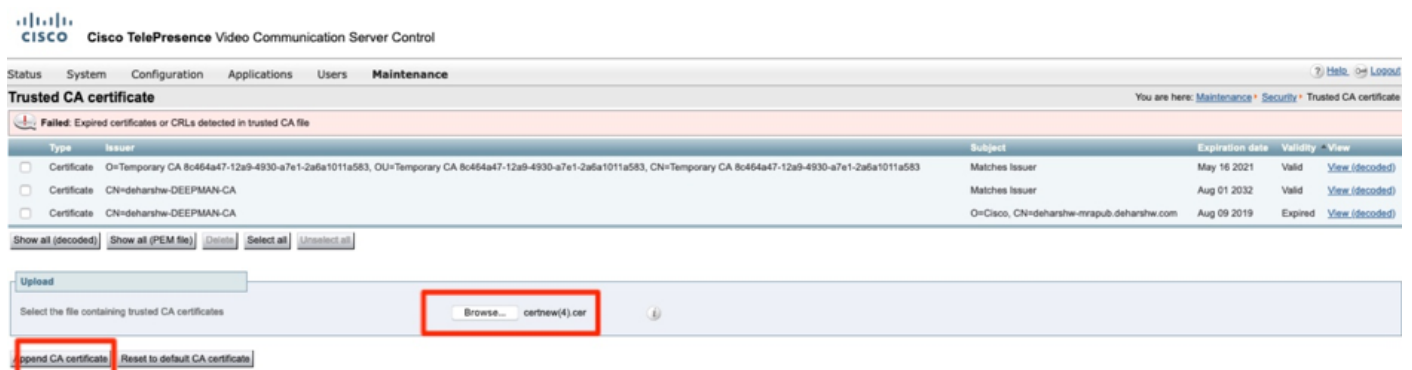
ステップ 1 : Expressway-Cコネクタホストで、Maintenance > Security certificates > Trusted CA certificateの順に移動します。



ステップ 2：信頼リストの認証局(CA)証明書を確認して、正しいCA証明書がすでに信頼されているかどうかを確認します。

ステップ 3：新しいCA証明書を追加するには

- Browse (またはブラウザ内の同等のツール) をクリックし、PEMファイルを見つけて選択します。
- Append CA certificate をクリックします。



新しく追加されたCA証明書がCA証明書のリストに表示されます。

特定の発行者とサブジェクトについて、CA証明書を更新されたものと置き換えるには、次の手順に従います。

1. 発行者詳細の横にあるチェックボックスをオンにします。
2. [Delete] をクリックします。
3. 前述の手順に従って、交換証明書を追加します。

Expresswayに管理コネクタとカレンダーコネクタをインストールし、クラウドに登録する


まず、Expresswayを組織内のControl Hub上のリソースとして追加します。

ステップ 1：組織の管理者クレデンシャルを使用して<https://admin.webex.com>にログインし、[Services](#)に移動します。

ステップ 2：Exchangeカードを使用したハイブリッドカレンダーを選択し、セットアップをクリックします。

The screenshot displays a grid of service cards in the Cisco Expressway interface. At the top, there are four status indicators: 'Setup not completed', 'Setup not completed', and 'Not Operational'. Below these are several service cards:

- Hybrid Calendar (Exchange):** Features the Exchange logo and a 'Set Up' button highlighted with a red border. Below the button is a 'View Prerequisites' link.
- Hybrid Calendar (Office 365):** Features the Office 365 logo and a 'Set Up' button.
- Hybrid Calendar (Google):** Features the Google logo and a 'Set Up' button.
- Hybrid Context:** Describes storing Cisco Customer Call data in the cloud, with a 'Set Up' button.
- Video Mesh:** Describes extending cloud media to use premises-based resources.
- Hybrid Data Security:** Describes managing encryption keys and other security services on-premises.

 注：このソリューションが機能するための要件をすべて満たしていることを確認するため、インストールの前に「前提条件の表示」に目を通してください。

ステップ 3：[次へ (Next)] を選択します。

Hybrid Calendar Service Setup



You are about to set up Hybrid Calendar Service. Verify that you have completed **prerequisites** before you start configuring Hybrid Calendar Service.

Hybrid Service connectors collect and send certain information about your Hybrid Service deployment to Cisco Webex. Hybrid Service microservices may also send commands to the connectors like upgrade, restart, and so on, to ensure that you receive the best service. [Learn more](#).

Back

Next

ステップ 4 : コネクタをインストールするExpresswayの完全修飾ドメイン名(FQDN)を入力して、Nextをクリックします。

Hybrid Calendar Service Setup



Deploy a new Expressway cluster, or select an existing one.

- Register a new Expressway with its Fully Qualified Domain Name (FQDN)

mgt.deharshw.space


Must match the value on the Expressway DNS settings:
[System host name].[Domain name]

- Select an existing Expressway cluster to add resources to this service.

Select an Expressway cluster... ▾

Back

Next

 注：この時点で、コンピュータはExpresswayコネクタのDNS Aレコードを解決でき、ExpresswayのIPアドレスに到達できなければなりません。

ステップ 5 : [Next] をクリックします。

Hybrid Calendar Service Setup



Complete registration and configure the connector

Calendar Connector will be installed as soon as you finish registration, enabling the Expressway cluster for Hybrid Calendar Service.

Click Next to send the registration token to the Expressway and continue the registration there.

Next steps and cluster configuration

Use the notifications  in the top left corner of Hybrid Calendar Service pages for next steps in configuration.

After registration, configure your new cluster. Click on the cluster and then "Edit cluster settings".



Next

この手順を実行すると、ExpresswayのWebグラフィックユーザインターフェイス(GUI)が新しいタブで開き、ログインプロンプトが表示されます。

手順 6 : expresswayの管理者クレデンシャルでログインします。

手順 7 : I want Cisco to manage the Expressway CA certificates required for this trustというチェックボックスをオンにします。

ステップ 8 : Updateソフトウェアをクリックして、接続を確認します。



Connector Management

Welcome to Hybrid Services

The Webex cloud handed out a token to the Expressway. Next you must meet the following requirements to continue the registration of this Expressway for Hybrid Services.

Requirements for registering Expressway for Hybrid Services

The Expressway must establish Certificate Authority trust with Cisco Webex Cloud.

I want Cisco to manage the Expressway CA certificates required for this trust.

The latest version of Management Connector must be downloaded and installed.

[Update software & verify connection](#)

ステップ 9 : Registerをクリックします。



Connector Management

Welcome to Hybrid Services

The latest software was successfully installed and all the prerequisites are met for this Expressway to be registered for Hybrid Services.

[Cisco Webex Cloud certificate management](#) - you are currently allowing Cisco Webex Cloud to add required CA certificates to the Expressway trust list

Click Register to be redirected to the Cisco Webex Cloud for the final confirmation.

[Register](#)

数秒後、ブラウザによってコントロールハブにリダイレクトされ、ログインすると表示されたページに移動します。

ステップ 10 : Allow Access to the Expressway チェックボックスを選択し、Continueをクリックします。

Expressway

Allow Access to Expressway

Permissions are required to allow your Cisco Webex organization to create, read, update, and delete user accounts, as well as read and update information about your organization.

Organization

deharshw.webexsandbox.co

FQDN or IP Address

mgt.deharshw.space

Allow Access to the Expressway
Only allow access to hosts you know and trust

Continue



By using Cisco Webex Services you accept the
[Terms of Service](#) and [Privacy Statement](#).

その後、登録が完了したことを示す確認が表示されます。

Expressway

Registration Confirmed

You will now be redirected to [mgmt.deployment.space](#).



ブラウザによってExpresswayにリダイレクトされ、ここで、言及されたバージョンでもコネクタ管理が実行中ステータスであることを確認できます。

CISCO Cisco TelePresence Video Communication Server Control

Status System Configuration **Applications** Users Maintenance

Connector Management

Hybrid Services

This Expressway cluster is registered with the Cisco Webex Cloud and is now ready for Hybrid Services.

[Cisco Webex Cloud certificate management](#) - you are currently allowing Cisco Webex Cloud to add required CA certificates to the Expressway trust list

<https://admin.webex.com> - configure your hybrid services, enable users for features, manage your hybrid service clusters, and set upgrade schedules for connectors.

Connector management

Click a connector name below to view or modify the connector details.

Connector Name	Status	Version	Enabled	Configuration
Management Connector	Running	8.11-1.0.11	Enabled	
Calendar Connector	Installing	8.11-1.0.6252	Disabled	Configure Microsoft Exchange Servers Configure Cisco Conferencing Services

数分後に、Calendar Connectorのインストールも開始されます。

Connector Management

Hybrid Services

This Expressway cluster is registered with the Cisco Webex Cloud and is now ready for Hybrid Services.

[Cisco Webex Cloud certificate management](#) - you are currently allowing Cisco Webex Cloud to add required CA certificates to the Expressway trust list

<https://admin.webex.com> - configure your hybrid services, enable users for features, manage your hybrid service clusters, and set upgrade schedules for connectors.

Connector management

Click a connector name below to view or modify the connector details.

Service	Status	Version	Active	Configuration
Management Connector	Running	8.11-1.0.11	Enabled	
Calendar Connector	Not configured	8.11-1.0.6252	Disabled	Configure Microsoft Exchange Servers Configure Cisco Conferencing Services

ステップ 11コントロールハブのServicesの下にあるステータスがNot Operationalに変わります。

Hybrid Calendar



Exchange

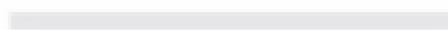
Users

[Enable users](#)

Resources


[View all](#)

Capacity used: 0%



Service

[Edit settings](#)

 **Not Operational**

ExpresswayでMicrosoft Exchangeサーバの設定を開始する前に、まずMicrosoft Exchange Serverで偽装アカウントを設定する必要があります。

カレンダーコネクタをMicrosoft Exchangeにリンクする

ステップ 1 : Applications > Hybrid Services > Calendar Services > Microsoft Exchange Configurationの順に選択します

ステップ 2 : Add Newをクリックします。

ステップ 3 : サービスアカウントの構成 : これは、Exchangeで作成した偽装アカウントの詳細です

表示名 : 任意の名前

タイプ : Exchange On-Premises

このExchangeサーバを有効にする : はい

NTLM認証 : オン

Basic Authentication (基本認証) : オン

自動検出は設定されていないため、使用されません。したがって、自動検出モードは、Exchangeアドレスを直接提供するように設定する必要があります

Microsoft ExchangeサーバのIPアドレスまたはFQDNを入力します

The screenshot displays the Cisco TelePresence Video Communication Server Control interface for Microsoft Exchange Configuration. The page is organized into several sections:

- Credentials:** Service Account Username is 'deepman@deharshu.space' and Service Account Password is masked with '*****'.
- Server details:** Display Name is 'Calendar Connector', Type is 'Exchange On-Premises', and 'Enable this Exchange server?' is set to 'Yes'.
- Connection:** 'NTLM Authentication' is 'Off', 'Basic Authentication' is 'On', and 'TLS Verify Mode' is 'Off'.
- Discovery:** 'Autodiscover' is set to 'Provide Exchange address directly' and 'Hostname or IP address' is 'exchange.deharshu.space'.

Buttons for 'Add' and 'Cancel' are visible at the bottom left of the configuration area.

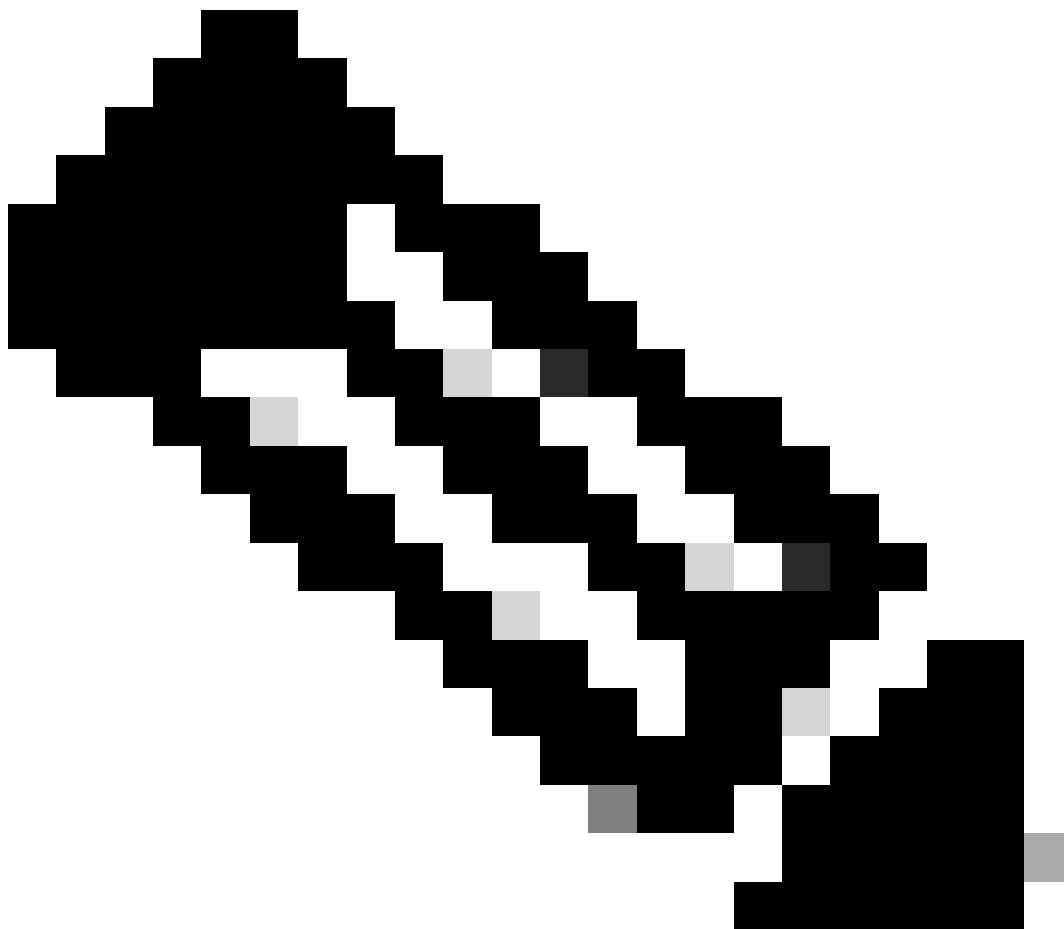
ステップ 4 : Scheduling Account Email Addressフィールドで、Exchange側の電子メールアドレスを設定する必要があります。

スケジューリングアカウントは、Webexデバイスから予約されたすべての会議の開催者として使用されます。このアカウントは、通常のユーザと同じようにルームを予約します。会議がスケジューリングアカウントから予約され、部屋が招待されると、カレンダーリングシステムのルームポリシーが尊重されます。会議室の予約を有効にした会議室を予約する権限を持つ有効な電子メー

ルアドレスを入力していることを確認します。

このアカウントは、特定のExchange構成のすべての会議室で会議を予約するために使用されるため、Exchangeメールボックスの制限に達したり、制限を超えたりしないように、メールボックスを定期的にクリーンアップすることが重要です。Exchangeに適切な保存ポリシーが既に設定されている場合は、このアカウントに適用されていることを確認してください。そうでない場合は、すべてのデフォルトフォルダ（電子メール、送信済みアイテム、会議）が数日後に自動的に削除されるようにメールボックスを設定する必要があります。最後のアカウントは、スケジューリングの目的だけに使用される通常の電子メールアカウントと似ています。

ステップ 5：「自動検出」セクションでは、自動検出を使用する必要があります。



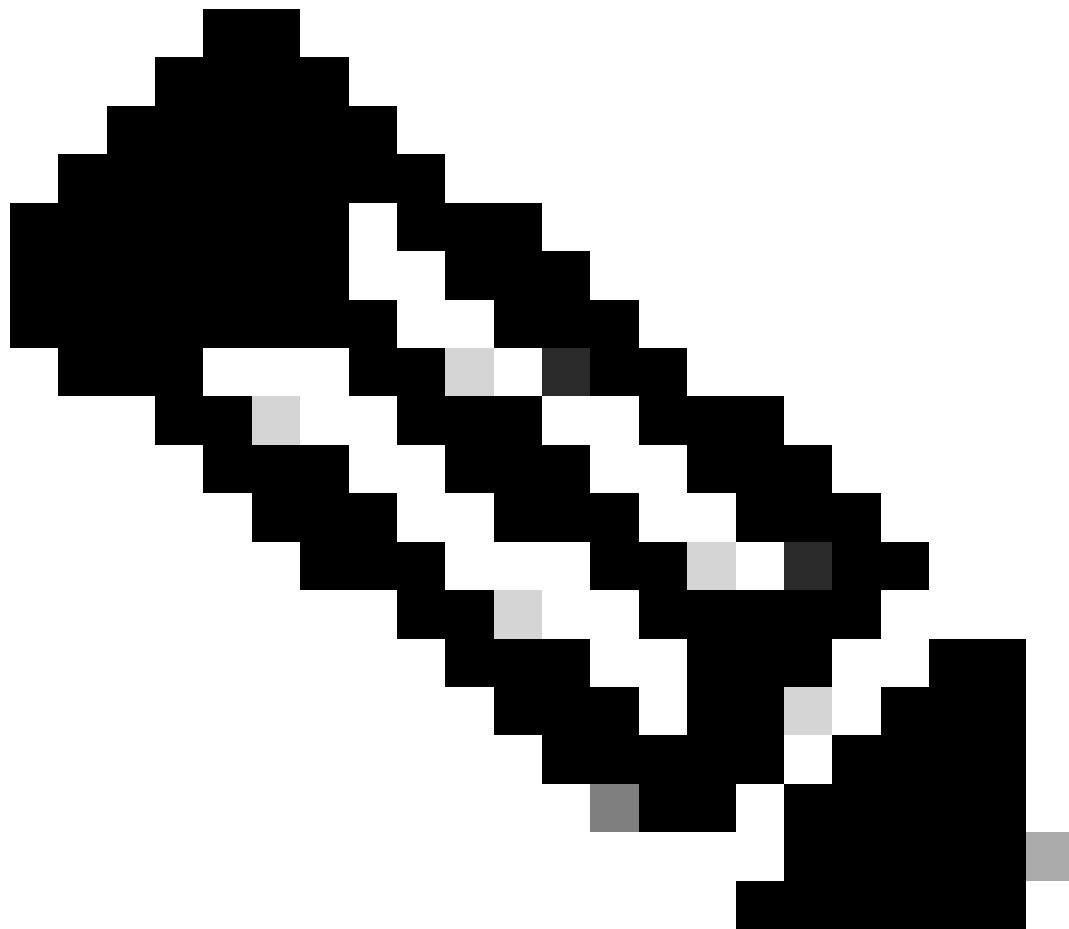
注:Expressway-CはActive Directory(AD)ドメイン名またはディレクトリサイト名を使用してADを検索します。

SCPを使用する場合と使用しない場合があります。このフィールドを[はい]に設定した場合、カレンダーコネクタが実行する最初の自動検出ステップは、自動検出URLの一覧を取得するための

Active Directoryサービス接続ポイント(SCP)レコードの検索です。カレンダーコネクタは、この手順を有効にした場合にのみ、Active Directoryドメイン、Active Directoryサイト、クエリモード、およびLDAP TLS検証モードとフィールドを使用します。これらのフィールドには、Active Directory内のLDAPサーバの検索とクエリーに必要な情報が含まれています。この手順が失敗しても、後の手順で自動検出が成功する必要があります。

SCPなしで続行する場合は、カレンダーコネクタが自動検出プロセスをテストできるように、ユーザーの電子メールアドレスを追加するだけです。

ハイブリッドカレンダーサービスを有効にしたユーザーの電子メールアドレスを、Control Hubに表示されるとおりに使用します。



注:Exchangeサーバ上で、スケジューリングアカウントと自動検出アカウント用に特定のアカウントを作成することをお勧めします。これらのアカウントに名前を付ける特定の方法はありません。

手順 6 : [Add] をクリックします。

手順 7：サーバがMicrosoft Exchangeサーバとの接続を確立するのを待ちます。エラーが発生した場合は、最初にポップアップ表示される必要があります。エラーが発生した場合は、図のようにランドページが表示されます



Calendar ConnectorのWebexサイト設定の構成

ステップ 1：Expressway-Cコネクタホストから、Applications > Hybrid Services > Calendar Service > Cisco Conferencing Services Configurationの順に選択し、Newをクリックします。

ステップ 2：Conferencing Services TypeでWebexとしてのTypeを選択します。

ステップ 3：このCisco Webex Meetingsサイトの完全修飾サイト名を入力します。

例：

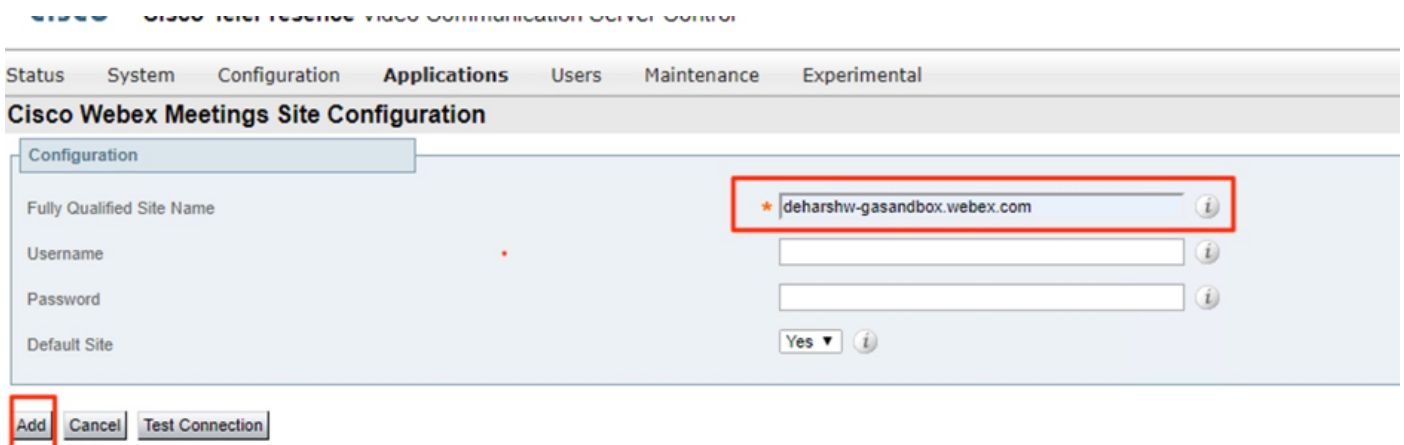
サイトにexample-co.webex.comとしてアクセスする場合は、example-co.webex.comと入力する必要があります。

ステップ 4：有効なWebexユーザアカウントの電子メールアドレスを入力し、パスワードフィールドを空白のままにして、接続のテストをクリックし、入力したサイト情報を検証します。接続テストが失敗した場合は、ユーザ名とパスワードの両方のフィールドを空白にして設定を保存できます。

ステップ 5：このサイトが既定であるかどうかを指定します。

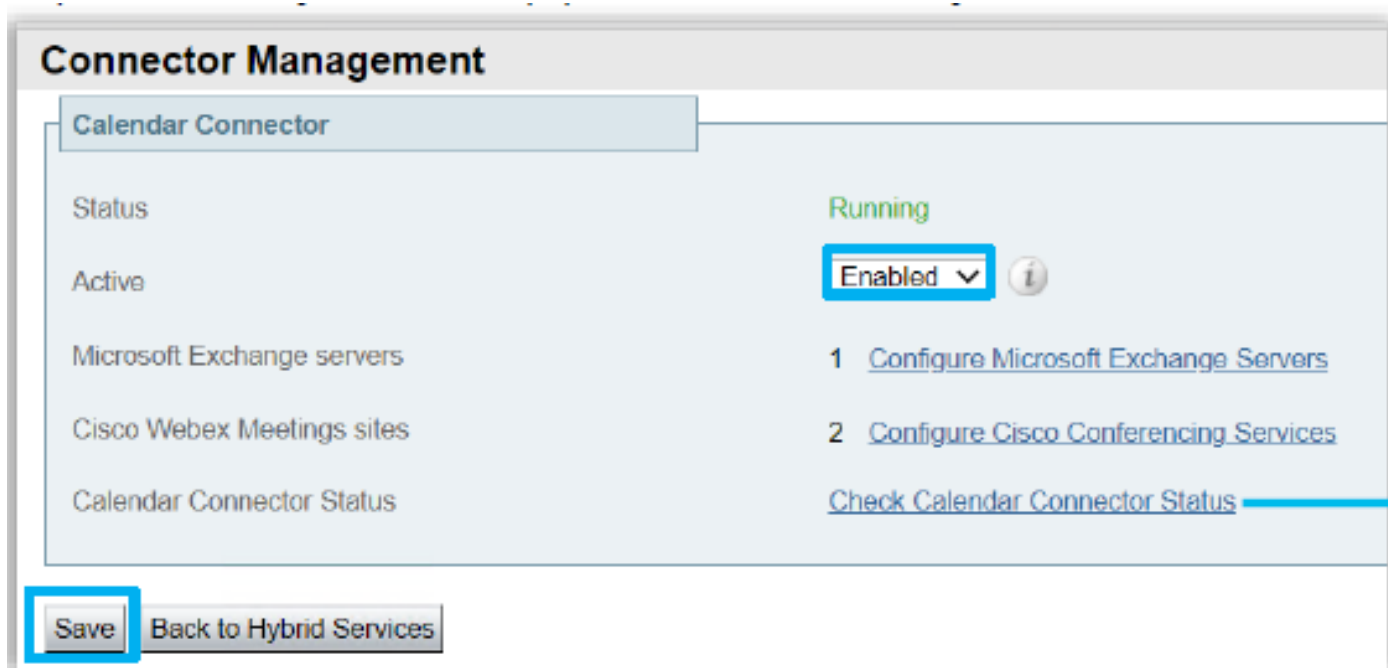
Webexアプリの自分のパーソナルルーム設定に別のサイトが設定されていない場合（ユーザのWebexサイトが管理者によってWebexにリンクされているか、ユーザが別のサイトで設定を行った場合）は、@webexにはデフォルトサイトが使用されます。

手順 6：Saveをクリックして、設定を保存します。

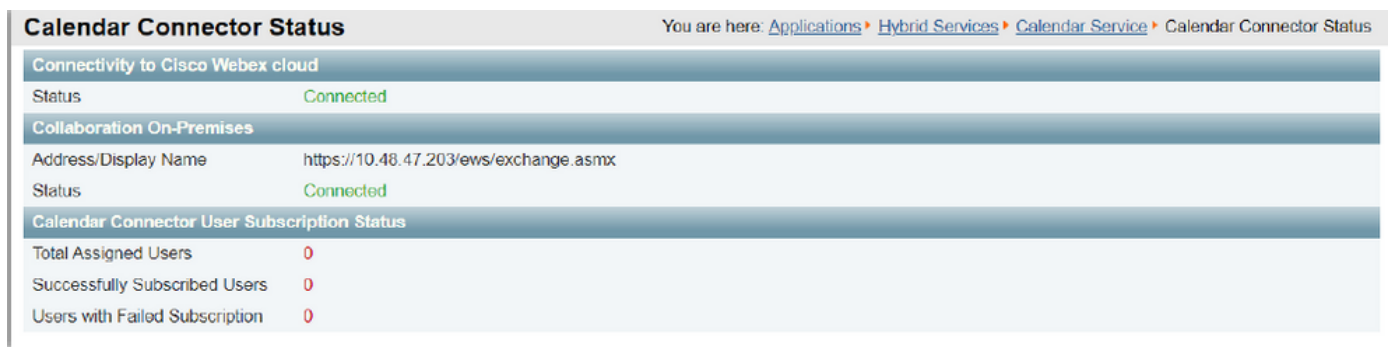


手順 7 : Cisco WebEx MeetingsサイトのUUIDを確認する

ステップ 8 : カレンダーコネクタを起動します。Expressway-C > Applications > Hybrid Services > Connector Management > Select Calendar Connectorの順に移動します。 ステータスがNot EnabledからRunningに変わる必要があります。



ステップ 9 : アプリケーション>ハイブリッドサービス>カレンダーサービス>カレンダーコネクタステータスに移動し、ステータスを確認します。




@webexおよび@meetキーワードの設定

ユーザがデフォルトで会議の場所に@webexを追加すると、カレンダーサービスがCisco Webexのパーソナルルームの詳細で会議を更新します。ユーザが@meetを追加すると、デフォルトでサービスがCisco Webexスペースの詳細で会議を更新します。管理者は、いずれかのキーワードに対して、これらのデフォルトのアクションを変更できます。

これらのアクションの設定方法に関係なく、パワーユーザはモディファイヤ:spaceまたは:myroomを追加して、いずれかのキーワードのアクションを指定できます。たとえば、@webex:spaceを追加すると、サービスによって会議がWebexスペースの詳細で更新されます。

ステップ 1 : <https://admin.webex.com>のカスタマービューで、Servicesに移動します。

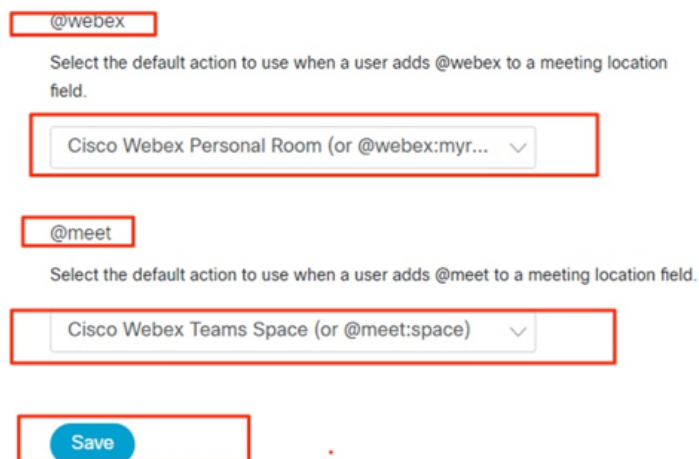
ステップ 2 : ご使用のカレンダー環境に対応したハイブリッドカレンダーカードで、Edit settingsをクリックします。

 注意 : 複数のカレンダー環境に対してハイブリッド・ カレンダ・ サービスを設定している場合、コントロール・ ハブの複数のページからキーワード設定にアクセスできますが、設定した値はすべての環境に適用されます。

ステップ 4 : [キーワード]セクションで、各キーワードに適用する既定の動作を選択します。

ステップ 5 : [Save] をクリックします。

Keywords



@webex

Select the default action to use when a user adds @webex to a meeting location field.

Cisco Webex Personal Room (or @webex:myr... ▼)

@meet

Select the default action to use when a user adds @meet to a meeting location field.

Cisco Webex Teams Space (or @meet:space) ▼

Save

カレンダーコネクタを起動する

ステップ 1 : Expressway-Cから、Applications > Hybrid Services > Connector Managementの順に移動します。

ステップ2ページのコネクタ管理セクションに、コネクタのリストとそれぞれのステータスが表示されます。管理コネクタが実行中で、カレンダーコネクタが無効になっている。

ステップ 3 : Calendar Connectorをクリックします。

ステップ 4 : ActiveドロップダウンリストからEnabledを選択します。

ステップ 5 : [Save] をクリックします。

Connector Management

Success: Saved

Calendar Connector

Status	Not enabled
Active	Enabled
Microsoft Exchange servers	1 Configure Microsoft Exchange Servers
Cisco Webex Meetings sites	1 Configure Cisco Conferencing Services
Cisco Conferencing Services	0 Configure Cisco Conferencing Services (at least one Microsoft Exchange server or one Cisco TMS must be configured for this service to be 'Enabled')
Calendar Connector Status	Check Calendar Connector Status

Save Back to Hybrid Services

カレンダーコネクタが起動し、ステータスが実行中に変わります。

Status System Configuration **Applications** Users Maintenance Experimental

Connector Management

Success: Saved

Calendar Connector

Status	Running
Active	Enabled
Microsoft Exchange servers	1 Configure Microsoft Exchange Servers
Cisco Webex Meetings sites	1 Configure Cisco Conferencing Services
Cisco Conferencing Services	0 Configure Cisco Conferencing Services (at least one Microsoft Exchange server or one Cisco TMS must be configured for this service to be 'Enabled')
Calendar Connector Status	Check Calendar Connector Status

Save Back to Hybrid Services

ユーザーのハイブリッドカレンダーサービスを有効にする

ステップ 1 : <https://admin.webex.com> のカスタマービューで、Users に移動します。

ステップ 2 : リストから特定のユーザを選択するか、検索を使用してリストを絞り込み、行をクリックしてユーザの概要を開きます。

The screenshot shows the Cisco Webex Control Hub interface. On the left is a navigation menu with options: Overview, Users, Places, Services, Devices, Analytics, Troubleshooting, and Settings. The main area displays a list of users under the heading 'Users'. The user 'bimal' is selected, and a detailed view of this user is shown on the right. In this view, the 'Services' section is expanded, and 'Calendar Service' is highlighted with a red box, showing it is currently 'Off'.

First Name	Last Name	Display Name	Email
bimal	sinha	bimal	bimal@deharshw.sp
Calendar	Connector	calendar	calendar@deharshw
deepman	harshwardhan	deepman	deepman@deharsh
sunil2		sunilgurav	sunil2@deharshw.sp
vicky	sinha	vicky	vicky@deharshw.sp
webexadmin		webexadmin	webexadmin@deha
		admin@deharshw.webexs...	admin@deharshw.w

ステップ 3 : Editをクリックし、Licensed Collaboration Servicesでユーザが少なくとも1つの有料サービスに割り当てられていることを確認します。必要な変更を行い、Saveをクリックします。

The screenshot shows the Cisco Webex Control Hub interface. The user 'calendar' is selected, and a detailed view of this user is shown on the right. In this view, the 'Services' section is expanded, and a message is displayed: 'This user must have one or more licensed services to be configured for Hybrid Services.' The 'Edit' button in the 'Services' section is highlighted with a red box.

First Name	Last Name	Display Name	Email
bimal	sinha	bimal	bimal@deharshw.sp
Calendar	Connector	calendar	calendar@deharshw
deepman	harshwardhan	deepman	deepman@deharsh
sunil2		sunilgurav	sunil2@deharshw.sp
vicky	sinha	vicky	vicky@deharshw.sp
webexadmin		webexadmin	webexadmin@deha
		admin@deharshw.webexs...	admin@deharshw.w

Services Enabled for bimal

Messaging	Meeting	Calling	Care
Free Public Collaboration Services			
Cisco Webex Teams Free Messaging	Cisco Webex Free Meetings	Cisco Webex Free Calling	None
Licensed Collaboration Services			
Messaging <input checked="" type="checkbox"/> Webex Teams <small>Named User License</small>	Meetings <input checked="" type="checkbox"/> Webex Team Meetings <small>Named User License ⓘ</small> <input type="checkbox"/> Webex Enterprise Edition <small>Named User License ⓘ</small> <small>deharshw- gasandbox.webex.com</small>	Calling <input type="checkbox"/> Webex Calling <input type="checkbox"/> Enterprise <small>Named User License ⓘ</small>	Care ⓘ <input type="checkbox"/> Chat and Callback <small>Named User License</small>

Cancel Save

ステップ 4 : カレンダーサービスを選択し、カレンダーに切り替えて、Microsoft Exchangeを選択し、変更を保存します。

The screenshot shows the 'Users' page in the Microsoft Teams admin center. A user named 'bimal' is selected, and the 'Calendar' settings are being configured. The 'Calendar' toggle is turned on, and 'Microsoft Exchange/Office 365' is selected as the 'Calendar Type'. The 'Status' is currently 'Off'.

First Name	Last Name	Display Name	Email
bimal	sinha	bimal	bimal@deharshw.space
Calendar	Connector	calendar	calendar@deharshw.space
deepman	harshwardhan	deepman	deepman@deharshw.space
sunil2		sunilgurav	sunil2@deharshw.space
vicky	sinha	vicky	vicky@deharshw.space
webexadmin		webexadmin	webexadmin@deharshw.space
		admin@deharshw.webexs...	admin@deharshw.webexs...

ステップ 5 : サービスをアクティブ化すると、ユーザステータスが Pending Activation から Activated に変わります。



bimal

bimal@deharshw.space



User > Calendar Service

Calendar



Add @meet to an invitation to create a Cisco Webex Teams room for your meeting. Add @webex to attach your Webex Personal Room.

Calendar Type

Microsoft Exchange/Office 365

Google Calendar

Not currently set up

Status: Pending Activation since today at 1:42 PM [See history](#)

この変更にかかる時間は、サービスに対して有効にしたユーザの数によって異なります。

ユーザは、機能が有効であることを示す電子メールを受信します。

カレンダーのスケジューリング用のデバイスの登録

ステップ 1 : <https://admin.webex.com> のカスタマービューで、[Places](#) に移動し、[Add Place](#) をクリックします。

ステップ 2 : 場所の名前 (物理的な部屋の名前など) を入力し、Next をクリックします。

ステップ 3 : Other Cisco device を選択し、Next をクリックします。

1つのスペースに含めることができるデバイスは1種類だけです。たとえば、ロビー、1台のCisco Webex ルームデバイス、またはWebexボードに最大10台のデスク電話を追加できますが、この2つを組み合わせることはできません。

ステップ 4 : place内のデバイスに割り当てるコールサービスを選択します。

1. 無料通話 (デフォルト) : Cisco Webex アプリケーションおよびSIPアドレスコール用。
2. Cisco Webex Calling (旧称Spark Call) : クラウド優先のメディアプロバイダーを通じて PSTN サービスを追加します。デバイスに電話番号と内線番号を割り当て、Next をクリックします。
3. Cisco Webex ハイブリッドコールサービス接続 : オンプレミスコール制御を通じてコールサービス (PSTN アクセスまたは内線番号アクセス) を使用します。Unified CMは、その場所にあるデバイスの電話番号または内線番号を提供します。

このサービスは、Unified CM クラスター上の電子メールアドレスの場所を検出します。検出されると、サービスはCisco Spark-RDを作成し、アカウントに関連付けられている電話番号とSIP URIを特定します。

ステップ5: (オプション) カレンダーサービスをオンにして、このデバイスでOne Button to Push(OBTP)を使用できるようにします。次に、Next をクリックします。

手順 6 : ハイブリッドコールサービス接続を選択した場合は、前の手順で作成したアカウントのUnified CMメールIDを入力します。オプションで、ローカルコールコネクタが属するリソースグループを選択し、Done をクリックします。

手順 7 : カレンダーサービスをオンにした場合は、会議室デバイスのカレンダーメールボックスの電子メールアドレスを入力または貼り付けます。これは、会議のスケジュールに使用される電子メールアドレスです。

- Googleカレンダーでスケジュールする予定のデバイスに対しては、G SuitesからGoogleリソースの電子メールアドレスを入力します(Calendar > Resources)。詳細については、「カレンダーリソース (ルームなど) について」を参照してください。
- Microsoft ExchangeまたはOffice 365でのスケジュールが予定されているデバイスの場合は、会議室メールボックスの電子メールアドレスを入力します。(詳細については、Microsoft Docs Webサイトの「Create and Manage Room Mailboxes」を参照してください)。

ステップ 8 : Nextをクリックし、表示されるコードを使用してデバイスをアクティブにします。

Cisco Unified Communications Managerクラスタで電子メールアドレス、ディレクトリURI、および電話番号が検出されている間、ハイブリッドコールサービスを追加した場所のアクティブ化には、約5 ~ 10分かかります。アクティブ化が完了すると、ハイブリッド対応の場所にあるCisco Webexデバイスに電話番号が表示されます。

Cisco Webexを使用してユーザをWebexパーソナルルームに関連付ける

ステップ 1 : Cisco Webexアプリにサインインします。

ステップ 2 : Meetingsに移動します。

ステップ 3 : My Personal RoomにPersonal Roomリンクが表示されない場合は、<https://company.webex.com/meet/username>またはcompany.webex.com/meet/usernameのフォームに入力し、ホストのPINを入力してSaveを選択します。

リンクが見つからない場合は、会議室やデスクのデバイスやボードを含む会議をスケジュールできるユーザに、パーソナルルームとCisco Webexを自分で関連付けさせてください。

確認

会議室のデバイスまたは個人会議でテスト参加ボタン

ステップ 1 : Outlook、Outlook Web Accessで新しい会議を作成し、「@webex:space」や「@meetto theLocationfield (ルームデバイス用) 」や「@webex (パーソナル会議室用) 」などのキーワードを追加します

ステップ 2 : Scheduling Assistantに移動して、Add roomをクリックし、追加するデバイスを選択します。

ステップ 3 : 必要に応じて他の会議情報を入力し、招待状を送信します。

ステップ 4 : 会議の開始がスケジュールされたら、デバイスにJoinbuttonが表示されていることを確認します。

- [@webexまたは@meetを使用して会議をスケジュールする](#)方法の詳細については、このWebexヘルプセンターリンクを参照してください。
- [不在時の表示方法の詳細については、このWebexヘルプセンターリンクを参照してください。](#)

トラブルシューティング

集めるべき情報

- 組織名およびID/WebExミーティングサイト
- 問題の症状は何ですか。
- 問題はいつ発生しましたか（新しい導入ではない場合）。
- タイムスタンプ
- 影響を受けるユーザ/デバイス
- 会議の招待のエクスポート（.icsまたは.eml）
- Expresswayログ

Control Hubのユーザーのステータスの確認（単一ユーザー）

ステップ 1：Control Hub > Management > Users > Select the Userの順に移動します。

ステップ 2：識別し、「ステータス」セクションに進みます。それをクリックします。

Calendar Service

To create a Webex meeting space, add @meet to the meeting invite. For meetings in your personal Webex space, add @webex.

Allow calendar service



Calendar Type

- Microsoft Exchange/Office 365
 Google Calendar

Status

Error by admin on 6 Jan 2023 12:46 (CET)



Choose the user's assigned resource group. The Webex cloud will remove this user and assign them to their service resource group.

Resource Group

Default



Error

Time: 6 Jan 2023 12:46 (CET)

Details: No operational connector found for the user. Check the cluster configuration and then try again.

Service enabled

Time: 4 Jan 2023 21:29 (CET)

Description: Pending activation

Service disabled

Time: 4 Jan 2023 21:27 (CET)

ステップ 3 : エラーの詳細を確認し、それに従って対処します。

Control Hubのユーザーのステータスの確認 (ユーザー・ステータス・レポート)

ステップ 1 : Control Hub > Services > Hybrid > Hybridの順に移動し、Hybrid Calendarタブを選択します。

ステップ 2 : Exchangeカードの下でusers enabledを選択します。ユーザステータスレポートが表示されます。

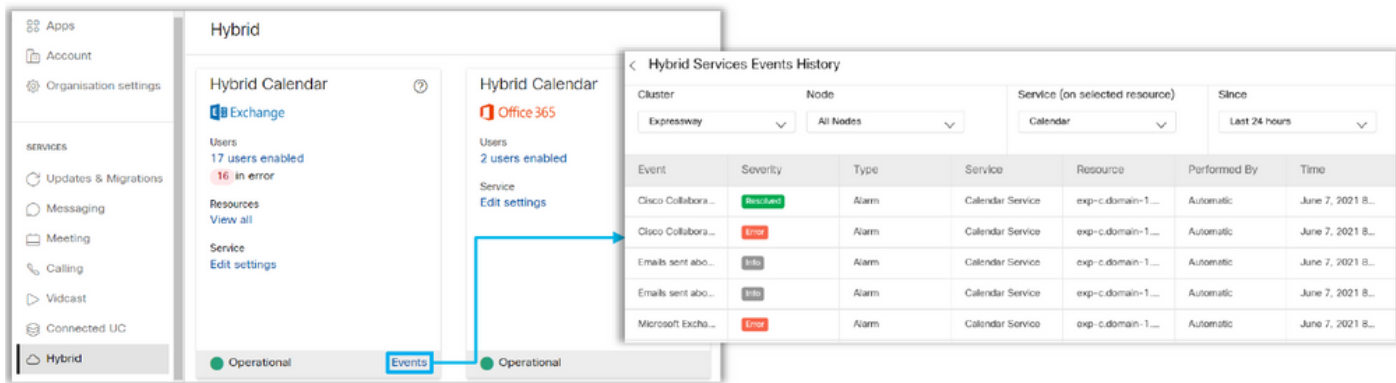
ステップ 3 : アクティブ化されたユーザー、アクティブ化を保留中のユーザー、またはエラーが発生したユーザーを選択します。

ステップ 4 : CSVにエクスポートします。

ハイブリッドカレンダーのステータスとイベントの確認

ステップ 1 : Control Hub > Services > Hybrid > Hybridの順に移動し、Hybrid Calendarタブを選択します。

ステップ 2 : Exchangeカードの右下をクリックします。



管理およびカレンダーコネクタの状態の確認

ステップ 1 : Expressway-C > Applications > Hybrid Services > Connector Managementの順に移動し、すべてのコネクタの健全性を確認します。

ステップ 2 : カレンダーコネクタの状態を確認するには、アプリケーション>ハイブリッドサービス>カレンダーサービス>カレンダーコネクタステータスに移動します。

アラームとイベントのトラブルシューティング

ステップ 1 : Expressway-C > Status > Alarmsの順に移動します。

ステップ 2 : Expressway-C > Status > Logs > Event logの順に移動します。

Cisco Webexハイブリッドサービスは[ハイブリッドサービス]としてタグが付けられ、60000 ~ 69999の範囲のIDを持ちます。(601XXはカレンダーサービスのものです)。

ステップ 3 : ログの設定

- ログをdebugレベルに設定します(Maintenance > Diagnostics > Hybrid Services Log Levels)。
- 診断ログの開始(メンテナンス>診断>診断ログ)
- 問題を再現します。

ステップ 4 : ログの収集

- 診断ログを停止し、収集します(メンテナンス>診断>ハイブリッドサービスログレベル)。
- クラウドにログを送信(Cloud Applications > Hybrid Services > Connector Logging)
- ログバンドルはTACエンジニアが分析できます。Expresswayのシリアル番号または生成された検索キーを入力します。
- 断続的な問題のログスナップショット(メンテナンス>診断>システムスナップショット>ログスナップショットの作成)

注:Expresswayは*.clouddrive.comへのHTTP接続を許可されている必要があります。
TCPポート443 (セキュア)。

Send Logs to Cisco Webex Cloud You are here: [Applications](#) > [Hybrid Services](#) > Connector Logging

Success: Generated Search Key `ee182e67-c564-482f-9d38-f7a314f96dd9`

Hybrid Services Log Search

Serial Number `007DEE86`

関連情報

- [ハイブリッドカレンダーの導入ガイド](#)

- [ハイブリッドカレンダーサービスのトラブルシューティング \(Cisco Liveプレゼンテーション\)](#)

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。